

# 秋

## 授業紹介 -教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2016.AUTUMN



No. 18

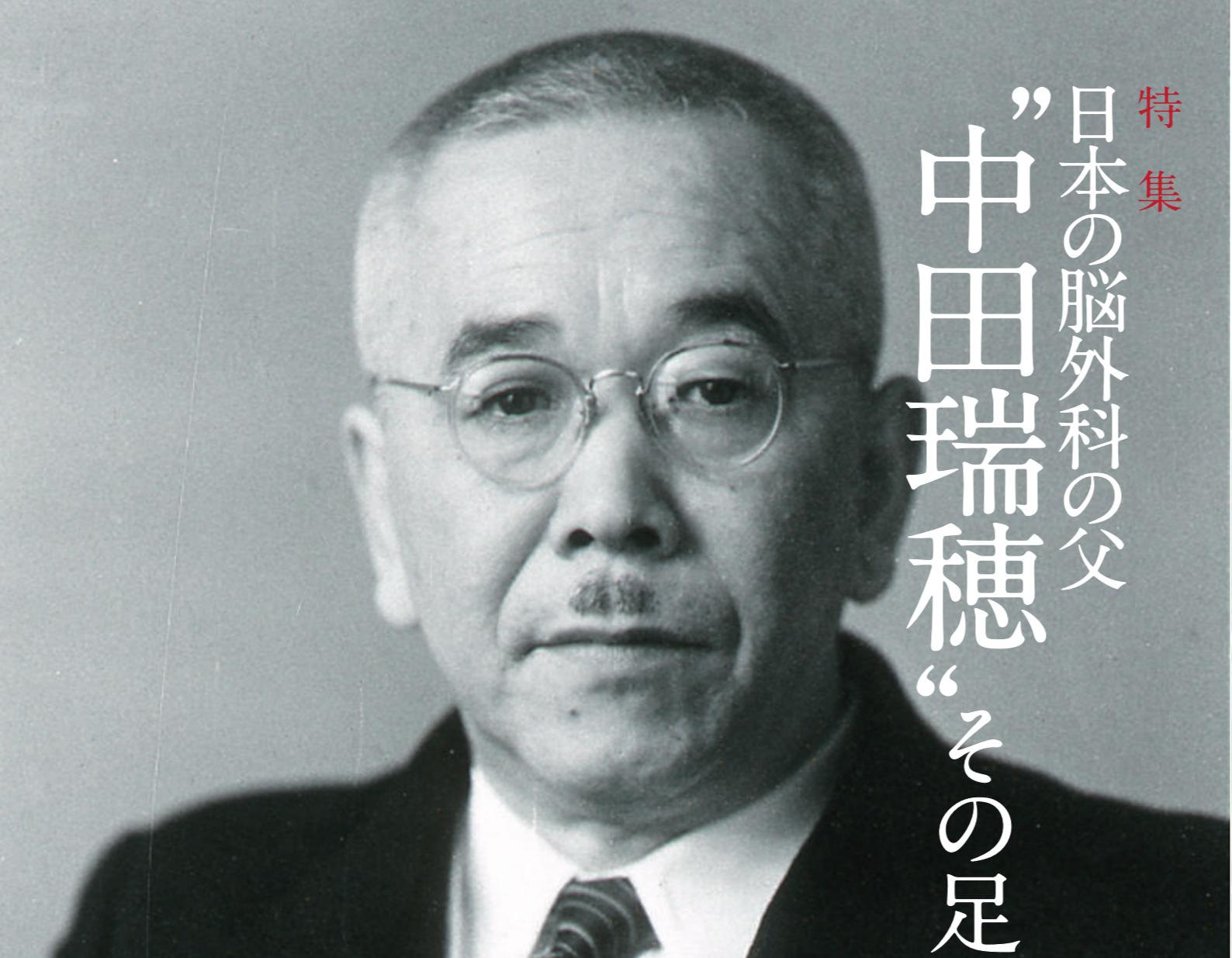
特集

日本の脳外科の父  
“中田瑞穂”  
その足跡を辿る

真の強さを学ぶ。



新潟大学



特集

日本の脳外科の父

”中田瑞穂“その足跡を辿る

本学が誇る日本初の脳に関する国立大学附置の研究施設「脳研究所」。  
その礎を築いた医師 中田瑞穂。  
医療機器も発達していない時代に脳という未知の領域に挑み、  
現在の医療に大きな影響を与えた一方で、  
絵画や俳句など多くの作品を残すという一面も持ち合わせた。  
今なお、脳研究所の教員に脈々と受け継がれるその精神。  
今号では、“日本脳外科の父”中田瑞穂先生の足跡を辿った。

まずは、その生涯を大まかに記す。明治26（1893）年4月24日、島根県でも雪深い津和野で出生。24歳で東京帝國大学を卒業。大正11（1922）年4月、29歳で新潟医科大学外科学教室助教授と附属医学専門部教授を兼任し、ここ新潟の地を踏む。当時は、精神科以外の脳疾患は内科の担当。脳だけを扱うという教室は全くなく、外科も外表と消化器を対象としていた時代であった。

**脳神経外科の先駆者  
生い立ちから退官  
脳神経外科の先駆者**

新潟大学脳研究所は、「脳及び脳疾患に関する学理及びその応用の研究」のために、昭和42年、わが国で最初の脳神経に関する国立大学附置研究所として設置された。新潟大学が誇る世界基準の研究機関である。今日では海外から日本を訪れるほど運ぶことから「新潟詣で」という言葉もあるほど。数々の研究業績と共に、世界に類を見ないすべての脳研究者が新潟に足を運ぶことから「新潟詣で」といわれるのも特長だ。その創成期に中心にいた人物がいる。日本の脳外科の父と言われる存在。本稿の主人公、中田瑞穂先生である。

日本の脳外科の父と  
言われる存在

2016.Autumn vol.18

## CONTENTS

- 03 特集 日本の脳外科の父 “中田瑞穂”その足跡を辿る
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! 学生ライフ
- 10 注目される研究報告
- 12 シリーズ 恩師と語らう
- 13 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- 14 OBOG・教員によるコラム
- 15 基金関係のお知らせ
- 16 Campus Information

公式Facebookページ更新中!



本学ホームページからアクセスしてください。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信しています。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いします。

Cover Photo

赤門は、1911(明治44)年に建てられた149mに渡る塀と1914(大正3)年に立てられた表門部分からなり、何度も修繕されたものの当時の姿ほぼそのままの状態で維持している。2005(平成17)年には「国の登録有形文化財」として登録された



新潟大学脳研究所

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字  
野中浩俊(のなか ひろとし)氏  
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

## ■日本の脳外科の父“中田瑞穂”その足跡を辿る

### なかた・みづほ 中田瑞穂の生涯 1893~1975年

明治26(1893)年 4月24日  
島根県津和野にて出生  
大正6(1917)年 12月  
東京帝国大学医科大学卒業  
大正7(1918)年 1月  
同大学近藤外科に入局、以後4年間副手、  
助手として勤務  
大正11(1922)年 4月(29歳)  
新潟医科大学助教授、  
新潟医科大学附属医学専門部教授就任  
大正13(1924)年 12月  
ドイツ(ハイデルベルク、E.Enderlen先生など)、フランス、  
オーストリア、アメリカ合衆国に外科学研究のため出張  
昭和2(1927)年 5月  
帰国  
昭和2(1927)年 6月(34歳)  
新潟医科大学教授  
昭和11(1936)年 5月(43歳)  
在外研究員としてアメリカ合衆国(脳神経外科医  
H.Cushing、W.E.Dandy先生など)、ヨーロッパに出張  
昭和11(1936)年 11月  
帰国  
昭和22(1947)年(54歳)  
「脳手術」南山堂第1版出版  
「学問の静かに雪の降るは好き」  
昭和23(1948)年 5月(55歳)  
第一回脳外科研究会(後の日本脳神経外科学会)  
新潟で開催  
昭和24(1949)年(56歳)  
「脳腫瘍」南山堂第1版出版  
昭和26(1951)年(58歳)  
第13回日本医学会総会特別講演  
「日本における脳外科の現況」  
昭和27(1952)年 4月  
(新潟医科大学が新潟大学医学部と変わる)  
昭和28(1953)年 4月(60歳)  
句集「刈上」を出版 ワーレンベルグ症候群の発作  
昭和30(1955)年の頃  
大脑半球剥除術を行なう  
昭和31(1956)年 4月(63歳)  
新潟大学医学部教授を定年退官  
同年同月  
(新潟大学脳研究室長)、新潟大学名誉教授  
昭和32(1957)年 4月(64歳)  
新潟大学医学部附属外科研究施設長(事務取扱)  
昭和33(1958)年10月(65歳)  
「外科今昔」文光堂を出版  
昭和34(1959)年 3月(65歳)  
退職  
昭和36(1961)年11月(68歳)  
紫綬褒章  
昭和41(1966)年 9月(73歳)  
「癲癇2000年」を連載  
(後に1984年、日本てんかん協会より単行本として発行)  
昭和42(1967)年 11月(74歳)  
文化功労者  
昭和46(1971)年 2月(77歳)  
「脳のPlasticityなど」「脳と心」講演  
同年 10月(78歳)  
Neuro-Gliologyを書く  
昭和50(1975)年 8月18日(82歳)  
逝去

※略歴作成:生田房弘名誉教授

からは意外に思える柔軟な表情。  
「先生は決して孤高の人ではありませんでした。まわりにはいつも魅力的な人や、医学界を代表する研究者が集まっています。先生の功績は決しておひとりで成し遂げたものではなかったよう思います。先生を語る際、絶対に欠くことができないのは伊藤辰治先生でしょう」

中田先生の全手術の病理診断を担当した伊藤辰治教授(写真3)は、中田先生の退官当時の医学部長。この伊藤先生の退官際の中田先生に対する配慮が、日本における脳研究の決定的な年のことである。

「大学構内には戦争中、天皇陛下の写真1枚が入っていた頑丈なコンクリート造りの奉安殿がありました。伊藤先生が思つかったのは、この奉安殿を改修し、医学部の学内措置として、すなわち本部や文部省の意向を伺う必要なしに、本造の2階建てとする研究者たちが集まる研究室ととなる。

では内々に作った自称の研究室

だった。その翌年、文部省から「新潟大学医学部 脳外科研究施設」として正式に認可されるこ

ととなる。

昭和13(1938)年45歳の時、「新潟神経学研究会」(現在の新潟脳神経研究会)を発足。

この後、日中戦争で厳しい状況の中地道な努力を続け、昭和22(1947)年に『脳手術』、

同24年には『脳腫瘍』を出版。

日本全国の脳外科を目指す医師はこれらの書によって先導され、

学ぶこととなった。また脳外科を

目指す新進の学徒はほぼ例外なく新潟で中田先生の手術を見

学、教えを乞うに至ったという。

また、脳手術では最も困難と考えられた大脑半球摘除術を成功。これも我が国で最初の

止血を繰り返しながらゆっくりと

進めるスタイル。中田先生はこの

理に強い共感を覚えて帰国。以

後、その興味は脳に集中してゆく。

は迅速さをモットーにしてきたド

イツ学派が主流。しかし、アメ

リカで驚異的な手術の成功事例

を重ねていつたクッシングの手術は

まったく逆だった。後に中田先生が「緻密な手術態度」と表現し

たクッシングの方法は、その都度

を重ねていつたクッシングの手術は

まったく逆だった。後に中田先生が「

## 海外研究者との 交流も発展に

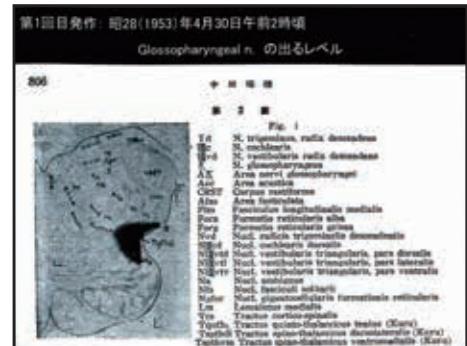


[写真5]ジンマーマン先生と中田瑞穂先生を囲んで 左から神経内科 植忠雄教授、植木幸明教授、ジンマーマン先生、中田瑞穂先生、生田房弘名誉教授

脳研究所の礎には国外からの協力もあった。それを物語る写真がある。中田先生の後任である植木幸明先生の教授室でのスナップだ（写真5）。生田名譽教授の師でもあったニューヨークの神経病理学者ジンマーマン教授が脳研究所を訪れた時のこと。中田先生とジンマーマン教授には意外な接点があった。1936年、中田先生がクッシング教授をエリ大学に尋ねたとき、ジンマーマン教授はその隣の部屋で標本を見ていたということが分かったのだ。中田先生とジンマーマン教授はすっかり意気投合した。この

## ■日本の脳外科の父“中田瑞穂”その足跡を辿る

**僕を解剖するときは、  
大脑と脊髄を切断せず、  
一塊として摘出してほしい。  
本当はね、僕も自分で見たいのだよ**



[写真9]第1回目のワーレンベルグ発作のときの中田先生自身の自己病巣分布推測図

昭和28（1953）年4月、中田先生は60歳の時に第1回目のワーレンベルグ症候群を発症する。症状としては延髄外側の病変でおきる強い恶心・嘔吐、顔面と体側半身の温痛覚障害やめまいなど。驚くべきはその療養中の行動だ。自身で体験した症状を詳細にまとめ、その延髄病巣を推論。観察記（写真9）として発表した。自らの肉体を持つて脳を説明するとは並々ならぬ情熱。やはり尋常の人ではない。

「先生の82歳の誕生日の翌朝、昭和50（1975）年4月25日のことです。先生は私を名譽教授室に呼び、「僕を解剖するときは、大脑と脊髄を切断せず、塊として摘出してほしい。そのため、君にこれを渡しておきたいた」と、前の晩に書いたという、先生の培検依頼書（写真10）を渡されました。私が部屋を出たときでした。「本当はね、僕も自分で見たいのだよ」とつぶやかれたのです」

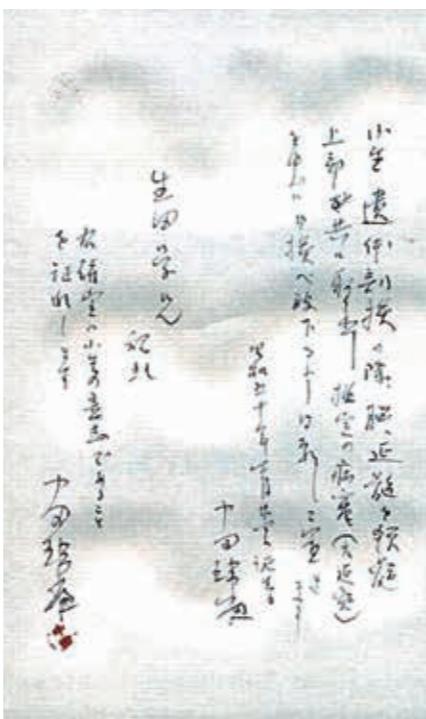
本脳外科の父、中田瑞穂は逝去。その昭和50年の8月18日。日本脳外科の父、中田瑞穂は逝去。

「この記事はきっと若い方も見るんでしょう?」

取材を終え、お札を言おうとした時、生田名譽教授がふと口にした言葉がある。

「中田先生の生涯のうち、14歳の時、父の死で中田家が津和野を去られてから、東京帝國大学入学までの苦しかったはずの確かな記録が探し出せないので、中田先生の青年時代に一体何があつたのか。研究者に限らず、人生で何かを成し遂げようという

## 自らの脳にまで 向けられた探究心



[写真10]中田先生の自身の解剖についての依頼状

「中田瑞穂先生の精神こそ大学の発展に必要」 高橋均 理事（研究担当）

生田房弘先生に師事した私は、中田先生の孫弟子に当たります。脳研究の実績はもちろんですが、私が考える中田先生の最大の功績は、育てたお弟子さんが新潟に残り、日本の脳研究を発展させてきたことだと思います。新潟が脳研究の聖地となる基礎を作ってくださった方。そして研究に対する情熱と信念、新しいことに挑戦する探究心を持った方。この精神を、医学部のみならず大学全体の発展に一丸となって繋げていくのが私たちの使命だと考えています。

高橋均 理事（研究担当）

若い世代にとって、もっとも価値のある学びが、中田先生の青年時代にある気がするのです」記録に残る偉大な功績だけではなく、そこに至るまでにあつたであろう努力の時代に思いをはせる。中田瑞穂という脳外科の父から学ぶことはまだまだ多くの記録がある。

今なお膨大な量が脳神経外科教室に保管されているという中田先生によるスケッチ（写真6）。その精度に舌を巻く。手術室の外でも絵への興味は尽きなかったようだ。腕前も相当なもの（写真7）。ところがこれも単なる余暇の趣味ではないようだ。中田先生を知る上で興味深いエピソードがある。「先生はよく絵を描かれました。写生の対象は、身の回りにある德利、野菜、果物などで、驚くほど本物に忠実でした」と生田名譽教授。記憶に鮮明に残る中田先生の言葉がある。

「僕は『絵』を描くけれど、決してうまい絵などではないんだ。いかにそれを忠実に表現できるか、それだけなのだ。僕の『俳句』もそうだ。僕は『科学』も全く

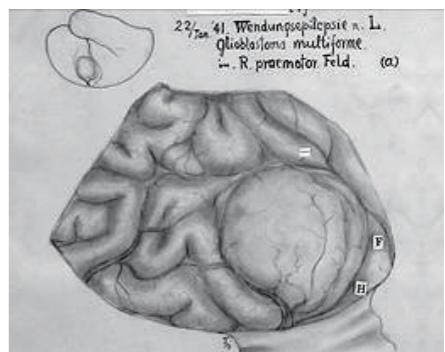
一緒にだとと思うよ。文学も絵の併存として把握され、その根底はすべて『観察』、徹底的な『観察』こそが原点であり、出発点なのだ」

この「観察」という言葉こそ、中田先生を語る上で欠かせない。徹底して対象に向き合う、そこから求めるものを探し出す力。その姿勢は、周囲の研究者から「観察の鬼」と呼ばれることがある。

また中田先生は、正岡子規、高浜虚子に連なるホトトギス派の俳人としても知られる。

「学問の静かに雪の降るは好き」雪が静かに降り積もる中、研究に勤しむ姿が想像できるこの句から、その人柄と研究へのひた向きさ、新潟という土地への想い

## 書画や俳句から 見える徹底した 観察者の顔



[写真6]「中田先生は、一つ一つの病態を繊密に正確に把握し、そして手術への反省を求めておられたのだと思う」と植木幸明第2代脳研究所所長の言葉が残っている



[写真8]赤門と脳研究所の間に位置する句碑。周囲にはジンマーマン教授の庭のつる草・ヒンカが移植されてある。春、中田先生の誕生日の頃、紫の花が咲き、その時を告げてくれる

が伝わる。この句が詠まれたのは昭和22（1947）年。同年には前述の日本で初めての脳外科手術書『脳手術』が出版されたと同時に、母校である東京帝国大学医学部から教授職での招聘の打診を断り、新潟で研究を続けていくことを選択している。このことも句を解釈する上では、興味深い背景である。

先生の生誕百年の記念に、新潟大学脳研究所前に建立された句碑にもこれが刻まれた（写真8）。



[写真7]亡くなる1年前、蝉を描いた81歳の作品。現在は脳研究所1階のホールに飾られ、脳研究所を訪れる全ての人を出迎えている

科学も文学も絵も、その根底はすべて「観察」。徹底的な「観察」こそが原点であり、出発点なのだ



# 注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探求や社会の発展に貢献する研究を行っています。

## research report.2

人文社会・教育科学系（人文学部）  
キム・ジュニアン 准教授



研究  
課題

### アニメーションが人間の知覚においてどのように作られ受容されるかを研究

#### 芸術・メディア理論と自然哲学の観点から アニメーション映像を分析する

アニメーションは、マンガの絵はもちろん、人形や靴のようなモノから生身の俳優に至るまで様々な素材を用いて作られる。さらにCGテクノロジーが加わることで、合成と操作といったアニメーションならではの発想や手法は実写映像の領域にまで適用されている。キム准教授は、芸術・メディア理論と自然哲学の観点からアニメーション映像を研究している。

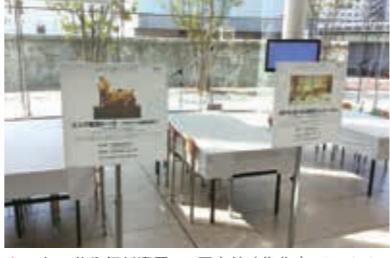
「メディアが人間の延長であると言われたのは既に数十年前のこと。私は、そのメディアの一つとしてアニメーションが我々や世界との間にどのように介入し影響しているのかを研究しています。現代社会では、人間の延長としての機械が人工の環境を築いており、そのインターフェース上に現れる映像の多くをアニメーションが占めています。1970年代の宮崎駿監督によるテレビアニメ『未来少年コナン』の第23話『太陽塔』にはホログラムの人間



↑研究室には膨大な数のアニメーション作品に関する資料が集められている



↑監修担当作品の「はみつ色のユン」はオリジナルの絵コンテや背景画などおよそ50点が展示された



↑メディア芸術祭新潟展では国内外映像作家のトークイベントが独自に企画、実施された



↑新潟市出身の映像作家 坂上直氏のアニメーション『その家の名前』は招待作品として展示・上映が行われた



↑粘土アニメーション「ニヤッキ！」で有名な映像作家 伊藤有壱氏のワークショップの模様

深い。デジタルデータで存在する複製可能なアニメーション作品の上映とは異なり、その場所と時間でのみ表現が可能な中核的プログラムとなった。

「国内外のアニメーション監督3名を招いたトークやワークショップを企画し実現させました。独自の企画としては、新潟会場で映像作品の完成以前の素材や記録を展示しました。これはアニメーションの作り手と受け手との間でどのようにコミュニケーションが行われるのかを理解するための貴重なヒントになります」

キム准教授の研究は、学会発表や論文執筆など、一般的にイメージされる大学における研究活動とは少々印象が異なる。アニメーションは不特定多数の人々に見られるために存在し、今後さらに我々の生活領域に影響を及ぼすことが予想される分野。それが人間の知覚へどのように影響を与えるのかを示す発展性の高い研究と言えそうだ。

## research report.1

医歯学系（大学院 医歯学総合研究科）  
小野高裕 教授



研究  
課題

### 新しい健康バイオマーカーとしての「咀嚼能率」

#### 時代が求める人の身体の評価指標すべく、咀嚼能率を可視化し、健康状態との関係を研究

小野教授の専門は歯科補綴（はてつ）学。歯の治療とはまた別の、入れ歯など歯の機能を補う人工物を研究・開発する分野である。その中で今、特に研究に勤しんでいるテーマが、咀嚼（そしゃく）能率。「咀嚼とは、食べ物を噛んで細かくし、唾液と混ぜて飲み込みやすい形にすること。難しい言葉に聞こえますけど、皆さんが毎日、食事のたびにやっていることですね」という説明にまず納得。

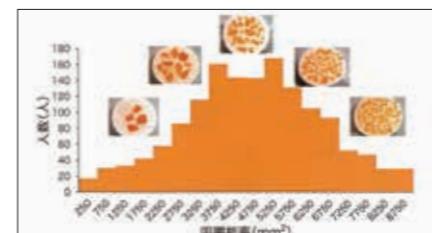


ができるし、装着後、症状が改善されたかどうかも確認できます。

さらに、この手法を応用する形で、咀嚼能率と健康状態の関係をずっと研究してきました。例えば今、メタボリックシンドローム——「メタボ」が動脈硬化性疾患を予防するための疾患概念として認知されていますが、咀嚼能率もそのマーカーとして役に立つんじゃないかと、大阪の国立循環器病研究センターと共同で研究してきました…このたび、約1,800人の研究データから、やはり咀嚼能率の低い人の方がメタボになるリスクが高いという結果が出てきたんです。それを論文として発表しましたが、こういう風にきちっとした数値で咀嚼能率を測り、それとメタボとの関係がちゃんと語られるのは世界で初めてなので、注目してほしいですね」

よく、元気なお年寄りはご飯もちゃんと噛んで食べている人だと言われるが、おいしいものをゆっくり食べて、いい形で咀嚼することが長生きにつながると医学的にも証明されれば、とても素晴らしいこと。「病院で臨床データを集めています。そして（病

$$\text{咀嚼能率}(\text{咬断片表面積增加量}) = 13.5 \times \text{グルコース濃度} - 250$$



↑食べ物は、塊のままで、細かくなればなるほど消化しやすい。その「咀嚼能率」の分布図（左）と視覚的に判定するスコアシート（右）。グミゼリーを30回噛んでもらい、その粉砕度＝ゼリーの表面積がどれくらい増えたかを約1,500人の一般住民に測った結果をまとめた



↑患者さんが噛んだグミゼリーをカップに入れるだけで、どれだけ表面積が増えたかを測る専用機が新潟大学にはある



右:「笑顔咲く。~日本各地の暮らしをめぐる旅~」特別版  
(写真集+特典CD) 2,500円 発行:(株)南の風社  
左:チャリティ写真集「僕らは今を生きている~東北の子どもたちからのメッセージ~」  
1,050円 発行:(財)児童健全育成推進財団



子どもたちが笑顔で過ごせる環境をいかに作れるか——。それは自分の人生の大きなテーマでもあるという



福祉・保育の現場の方々への講演会・研修会の講師を行っている。自分だけでなく 笠原名人を各地に生み出したい

「撮る・撮られる」という関係性を超えるのが大事。そのため、同じ時間を共有し、一緒に汗をかくんのです。その共に何かを作り上げたときの達成感と喜びを写せるのが醍醐味です」。そういう人との信頼関係が生きています(被写体とわけた)。

## Information

〈公式HP〉  
えがお先生  
(パパママ向け写真ブログなども展開中)  
<http://egao-design.jp/sensei/>  
〈連載〉  
「新潟日報」連載コラム「笑顔の配達便」～第1・3・5火曜に掲載

時に学んだ人の絆を大切にし続けるこの写真家の存在は、意義深い。ぜひ注目したいひとりである。

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局  
電話:025-262-7891  
(受付時間 平日10:00~15:00)  
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



恩師：楠原 征治 名誉教授 元・新潟大学農学部教授 X 教え子：三宅 克也さん 杉山 稔恵さん

恩師：楠原 征治 名誉教授 元・新潟大学農学部教授 X 教え子：三宅 克也さん 杉山 稔恵さん

**三宅** 先生の研究には先見性があり、新しいことにどんどん挑戦させていただきました。その時、戦は僕の財産です。

**杉山** 研究者としての先生は厳しい面もお持ちでしたけど、学生との交流に積極的でした。

**楠原** 僕は学生と遊ぶことが大好き。春は花見、夏は学生と一緒に五十嵐浜で泳ぎ、忘年会は温泉巡り。研究室でもよく飲みましたね。

**三宅** 杉山さんが持ってきたのは畜産学科の会報誌?

**杉山** はい。懐かしいので持っていました。これは三宅さんが3年生の時のものですよ。

**三宅** これは懐かしい。会報誌に何はそれぞれが研究外のこととも適当に書くんです。今のブログみたいな感じですよ。今はもうないんでしょうか?

**杉山** はい。こういう学科内や学生同士のやりとりは少なくなりましたね。僕は三宅さんにすごく教わったし、研究の意見が合わなかつたり不真面目な仕事をしたら、原先生には真剣に怒られました。

**楠原** 私も年齢とともに穏やかになりましたね。この人たちの時、二番後へ

# シリーズ vol. 恩師と語らう

## 師弟で懐かしむ当時の新潟大学

A photograph of three elderly men in suits sitting at a long white table, smiling. The man on the left is wearing a light gray blazer, the middle one a dark suit with a striped tie, and the right one a dark suit. In the bottom-left corner, there is an inset photograph showing a stack of papers and books, possibly related to the event.

杉山 先生の思いは今も研究室の伝統として残っています。

**三宅** 学生時代に大変な経験をしたことがよかつたんだと、今は感じます。人間、下積みがあるから頑張れるんだとくづく思いますね。先生は一人ひとりの論文を色鉛筆で直してくれました。

**杉山** 僕も学生の論文はできる限り丁寧に見るようにしていました。これは先生の影響。自分が「これでいい」と納得しているものを直されるというのは、すごくいい訓練になる。

**楠原** 社会に出るといろんな報告書があるでしょう。卒業生から「研究室での経験が役に立った」「レポートを上司に褒められた」という話をよく聞きます。とてもうれしいことですね。

**杉山** 「企画・実行・まとめ」という力こそ社会に出て役に立つ。先生は研究を通してこれを身につけさせてくださいたんですね。

**楠原** 学生時代の経験は後になつて分かるものが多いんです。ふたりとも今や立派な研究者ですが、卒業生というのはいくつになっても気になるもの。今も元気にしてますね。



くすはら せいじ  
西原 征治  
著者

学博士。専門は畜産学・医学。東北大大学院農研究科修士課程修了。昭45年新潟大学助手。昭53年から2年間、米国ペンシルベニア州立大学客員研究员として留学後、新潟大学助教授、教授として教鞭を。平成19年退官。



みやけかつや  
三 家 喬也

昭和62年農学部卒業。  
平成元年大学院農学  
研究科修士課程修了。  
平成12年 博士(医学)。  
現在は国際医療福祉  
大学教授。細胞膜修復  
のメカニズムを研究。



すぎやま としえ  
杉山 稔東

平成元年農学部卒業。  
平成6年大学院自然学科  
研究科修了。平成16  
年より新潟大学農学部  
助教。平成22年より准教  
授として教壇に立つ。専  
門は動物生体機構学。

# ー学生の輝く未来と共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、  
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

## 新潟大学まなび応援基金

経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援のための事業に限定して、ご寄附をお願いしております。平成28年税制改正により、上記の使途に限定した寄附に係る個人寄附者は、「税額控除」と「所得控除」のどちらかを選択する事が可能となったことに伴い平成28年11月から募金活動を開始しました。

### 寄附目的と 支援事業

寄附目的は、経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援事業に限定しています。  
具体的な活用は、下記事業のうちから支援の必要性の高い事業に活用させていただくこととし、  
寄附者が支援事業を指定することはできません。

- 入学科、授業料又は宿料の全部又は一部を免除する事業
- 学資金を貸与又は給付する事業
- 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業
- TAやRAの業務を行なう学生に対する手当等を負担する事業

### 税法上の 優遇措置

- 個人** 税額控除と所得控除を寄附者が選択できます  
**法人** 全額損金に算入可能です

寄附の申込み方法や謝意の表明などは「新潟大学基金」と同じです。詳細はホームページやパンフレットをご覧ください。

## 新潟大学基金

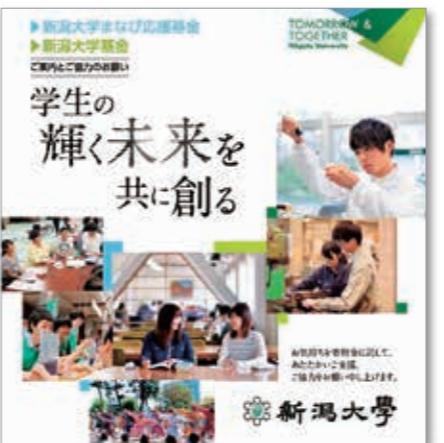
「新潟大学基金」は、「新潟大学まなび応援基金」で行なう事業以外の、全ての事業を推進するためご寄附をお願いしております。寄附者が教育活動の支援、学生の修学支援、研究活動の支援、キャンパス等施設整備の支援、病院運営の支援、大学全体の支援など寄附目的を指定することができます。

### ■トピックス

アーチェリー部のOBOGやアーチェリーの振興を望まれる方などから寄せられたご寄付を活用し、五十嵐キャンパス内のアーチェリー場(上屋)の新設、夜間照明の新設、防矢ネットの新設等の整備を行ない、11月14日に竣工式を行ないました。

### ■寄附者名簿 (28.4~28.9入金分)(50音順 敬称略)

相澤 吉久	鎧 基倫	阿部 洋一	阿部 良一	五十嵐 文雄	五十嵐 吉信	石田 武裕	石田 央	伊藤 千絵	伊藤 雅章
伊藤 道一	入澤 義和	宇土澤 光徳	遠藤 国勝	大西 義久	荻原 剛	小野 真弓	風間 毅	柏木 道子	柏田 操
片桐 明善	加藤 健一	金井 久容	神長 直美	苅部 浩二	川井 洋一	川瀬 芳夫	川名 正史	川村 裕	黒田 喜久二
小林 巍	小林 七雄	佐々木 拓登	斎藤 三千政	酒井 邦夫	島田 三貴也	白井 邦夫	菅又 正剛	鈴木 明夫	鈴木 伸男
須藤 明子	高木 敏之	高杉 浩文	高橋 姿	田代 文俊	田鍋 栄	中村 秀子	中村 紘明	中山 修	西崎 浩
根岸 裕太	畠山 貴明	長谷川 進	原 功	平井 博夫	平松 要一	深澤 仁	船村 知世	本田 由佳	前沢 政次
三浦 浩子	三沢 真一	森下 芳夫	矢口 健二	山本 善政	吉澤 富枝	吉沢 浩志	吉田 滋	吉田 勘	米川 宏一
龍 博志	若井 正之	匿名希望者 30名							



## 新潟大学サポーター倶楽部

継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附することとし、平成28年3月に設立しました。企業・団体を中心に入会をお願いしております。また、会員への情報発信により、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指しています。

### ■トピックス

サポーター倶楽部会員を対象に、平成28年度報告会・情報交換会を11月29日(火)16:30から新潟市内ホテルで開催しました。

★報告会では、倶楽部入会状況、収支状況等の報告や大学からの情報発信、会員企業からインターンシップや共同研究についての報告・提案を行ないました。

★情報交換会では、海外留学経験学生、ダブルホーム活動参加学生や本学独自奨学金受給生による活動報告を行なうとともに、会員間の情報交換を行ないました。

問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室 [TEL]025-262-5651・6010 [e-mail]kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

[HP]http://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

今回のテーマ 『物事の見方を少し変えるだけで自分の可能性が広がる』

――域活性化モデル――  
「ファンションモデル」とは違  
い、地元の方々と一緒に新潟を盛り上げ  
PRもする広告塔。私 山田彩乃は  
新潟大学を卒業後、この地域活性化モ  
デルとして活動しています。現在は、  
新潟ガールズ集団リリーアンドマリー  
ズ(通称・リリマリ)に所属し、小学  
生から50歳まで幅広い年代や職業の方々、約80名(11月現在)と一緒に地  
域活性に取り組んでいます。

新潟といえば? の問いに「お洒と  
日本海とお米以外は何もないかな」と  
嘆ぐ人も多いかも。でも本当にどうな  
のでしょうか? 世界が認める技術、  
術、場所、人、物、行事……は県民  
でも知らない面白いネタはたくさんあ  
るんです。同じ景色でもその歴史や想  
いに実際に触れると思え方は変わるも  
の。「新潟のいいところ」を地元女性が体験  
して発信することで、より多くの人に知  
つてもらうことがで  
きます。そして何より地元を愛する  
人が増えることが地域活性につながる  
第歩だと考えながらこそ、新潟に住  
む女性が面白いと思つたものを実際に  
体験できるようリリマリのメンバーで  
企画運営しています。メンバー自身、  
中々経験できない企画運営から、自発

新潟はどんどん盛り上がりしていくので  
はないでしょうか。講演会でそんな話をすると「昔から

面倒くさがりで何事も最低限でいいや  
というダメ人間(笑)。でもこの活動か  
ら、誰かのためになることの重要さ、  
それがより大きな原動力になるのだと  
実感することで少しずつ変わることが  
できました。「できない、やれない」で  
はなく、「できるため、実現するために  
どうしたら良いか?」と考えることで  
道がひらける。物事の見方を少し変え  
ただけで、見える世界はものすごく変  
化します。どうせ私はこの程度、と決  
めつけて自分の限界を決めるのはもっ  
たいない。私もそう思っていたからこ  
そ、もっと多くの女性が自分の可能性  
を見つけ、輝くきっかけづくりをして  
いのです。

このコラムは隔号連載。私自身の経  
験から、「輝く女性」についての想いを  
綴つていきます。お楽しみに!

新潟大学OG  
山田彩乃の隔号連載コラム

## “輝く女性” 研究所

新潟大学教育学部卒業。  
2015Miss Earth Japan  
(日本代表)。いたみオフィス  
株式会社芸能事業部代表。  
レギュラーパン組NST「八千  
代コーカスター」毎週土曜日  
10:25~放送。BSNラジオ  
「山田彩乃のゴゴイチinメ  
ディアシップ」その他、ウォ  
ーキングレッスン講師、講演会  
等も行っている。



Ayano Yamada

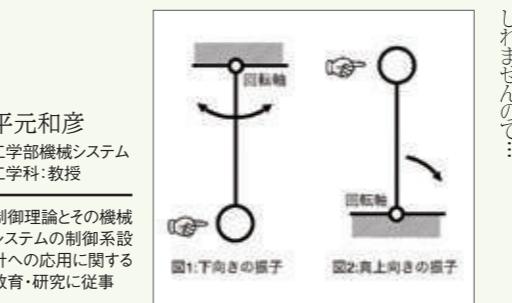


## COLUMN ◇ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と  
日常の接点を題材に、日々の生活に通じる  
理論やアイディアを綴るリレー式コラム。  
記念すべき第一回は工学部からスタートです!

### 第1回●工学部 振子のふるまい～キャラ設定は疲れる～

柱の先におもりをつけた振子は、  
通常図1のよう、真下向きを中心  
に振動します。回転軸に摩擦のあ  
る振子のおもりを指でつづくと、  
つづく力の大きさを向きに関係な  
く、振子はいずれ真下向きで静止  
します。そのような、振子が最終  
的に静止する真下向きの状態を力  
学では「安定な平衡点」と呼びます。  
振子の静止できる点がもう一つ  
あります。それは、真上向きの図  
2の状態です。難しいですが、う  
まくやると支えがなくて、もともと向  
きでバランスが取れます。このと  
き、おもりをつづくとどうなるで  
しょうか。ご想像通り、振子は倒  
れてしまします。実際、真正向き  
のバランスの取れた状態で、おも  
りをつづく力をどんなに小さくし



められます。疲れるキャラ設定も、  
もしかすると何か意義があるかも  
知りませんので…

振り子(倒立振子)この場合は「ど  
うして立つ基盤の違いによりそ  
れはいけないことも多く、そんな  
ときほどても疲れます。そんなの  
設定とか呼ぶようです。オッサン  
設定とか呼ぶようですね。オッサン  
は地と離れたキャラ設定をしなけ  
ればいけないことも多く、そんな  
ときほどても疲れます。そんなの  
も抛って立つ基盤の違いによりそ  
の「ふるまい」が異なってこの例  
として、ここでは振子の話をしま  
す。棒の先におもりをつけた振子は、  
通常図1のよう、真下向きを中心  
に振動します。回転軸に摩擦のあ  
る振子のおもりを指でつづくと、  
つづく力の大きさを向きに関係な  
く、振子はいずれ真下向きで静止  
します。そのような、振子が最終  
的に静止する真下向きの状態を力  
学では「安定な平衡点」と呼びます。  
振子の静止できる点がもう一つ  
あります。それは、真上向きの図  
2の状態です。難しいですが、う  
まくやると支えがなくて、もともと向  
きでバランスが取れます。このと  
き、おもりをつづくとどうなるで  
しょうか。ご想像通り、振子は倒  
れてしまします。実際、真正向き  
のバランスの取れた状態で、おも  
りをつづく力をどんなに小さくし



お問い合わせ・お申し込みは 新潟大学駅南キャンパスときめいと Tel:025-248-8144 Fax: 025-248-8144 E-mail: tokimate@adm.niigata-u.ac.jp

# Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

## 平成29年4月に創生学部を新設及び理系3学部を改組します

申請中であった創生学部の新設及び理系3学部(理学部・工学部・農学部)の改組について、文部科学省大学設置・学校法人審議会の審議の結果、設置が認められ、8月31日(水)に記者会見を行いました。

新たに設置される創生学部は、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題や専門領域を選び学んでいく新しい教育プログラムです。

「課題発見・課題解決能力」の育成を重視したカリキュラムの中で、複雑化する現代の課題に多角的な視野をもって立ち向



かう確かな能力と生き抜く自信を身につけます。

理系3学部の改組では、各学部がそれぞれ1学科となり、異分野を横断した教育

プログラムや、文理融合の新たな分野を学ぶ教育プログラムなどが設置され、広く社会に貢献できる人材を輩出します。

## 平成28年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択されました

本学が申請した「メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリ型融合教育による理工系人材育成」が平成28年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択されました。大学の世界展開力強化事業においては、平成26年度(対象国:ロシア)、平成27年度(対象国:トルコ)に続き、3年連続の採択となります。

本事業の概要は、王立ブンペん大学(カンボジア)、ラオス国立大学(ラオス)、ハノイ工科大学(ベトナム)、チュラロンコン大学(タイ)のメコン地域4大学と本学の学生で「ドミトリ型教育」

の特徴である、学年縦断・分野横断・多国籍学生チームを結成し、短・中・長期の3コースで、主にグループワークに取り組みます。インターンシップでは、国によって異なる課題やニーズを地域協働の視点から理解すると共に、異なる社会環境を実体験することで、産業変遷の一貫的プロセスの知見の涵養を図ります。

本取組みにより、グローバルな視点で地域創生を実現すると共に、インフラ産業や製造業などで、持続的で質の高い産業の創生・発展に貢献する人材の輩出が期待できます。



## 平成28年度新潟大学・全学同窓会交流会が開催されました

新潟大学・全学同窓会交流会 記念講演会及び懇親会を平成28年10月22日(土)ANAクラウンプラザホテル新潟において開催しました。記念講演会では、「新潟シティガイド」の生みの親のひとりである、路地連新潟 メンバーの野内隆裕氏から、「路地からのふるさと再生」と題し、新潟市と二人三脚をしながら進めた町おこしの歩みなどについてユーモアを交えお話をいただき、約200名の参加者から盛んな拍手が湧きあがっていました。引き続き開催された懇親会では、



全学同窓会雪華支援事業に選ばれたサークル等への目録贈呈や糸東流空手道部の



部員による演舞が披露されるなど、盛況の内に幕を下ろしました。